和漢朗詠集卷上

春

立春　早春　春興

春夜　子日（付若菜）　二月二日（付桃）

暮春　三月盡　閑居

鶯　霞　雨

梅（付紅梅）　柳　花（付藤花）

鄰燭　歓冬　藤

夏

更衣　首夏　夏夜

端午　納涼　晚夏

花橘　蓮　郭公

螢　蟬　扇

尊経文庫

螢　蟬　扇

稚

立秋　半燈　七夕

燈興　秋晩　秋夜

八月十五夜 付月

九月盡　女郎花　萩

九月九日 付菊

紅葉 付紅葉　鴈 付鴈　出

葉　櫨　初雪

扉　露　霧

搗衣

冬

初冬　冬至　歳暮

炬火　霜　雪

氷 付春氷　霰　佛名

氷付春氷　叡

佛名

春

立春

遠山潛雪不待芳草之候迎春色
変將春雨露之恩
池塘東風度解寒梅半開蕙蘭
半ばひらけるもの一色と
なりやいとしさ
柳士氣力條之動池之波之氷無用
今日不知誰人春風春氷一時來
夜向殘更寒聲春半曉猶惜
神もちくしたしい
まつ月の風やうく
ちりぬるや

[illegible]

早春

氷消ゆる蘆の芽の春入る枝の柳眼の色
光世の風波清き續教の帰鳥流水中
東岸西岸雨霧の柳遅速不同花枝
少枝の梅開落の新
紫竜嬉戯春雲の雅脚裏
新海風柳新柳緑氷消波暖春潮
庭塘氣通晴雨緑林愛宿雷紅
いとゝ後ろ[illegible]乃さ[illegible]
りえ出ゝ[illegible]なりにゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

春興

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

山桜盛り梅日曝紅梅と帰り柳

坂岸柳風絞麹塵と緑

着節屋敷紅梅繚乱と接穂繁り緑

林中紅梅時雨降る外遊緑盛り

笠新月影思詩酒風雲情

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春夜

肖燭去燈深春月端紅同清光

[illegible]

子日 付若菜

侍松樹靡藤霞霜雪地

和菜芽の緑開味と点酒

依松根靡藤千年と華満子

折梅花の掛頭二月と雪落衣

[illegible]

折梅記云摘題二月之雪落夜
子乃日してゐめつる野邊の姫子松
いつそやちよの紙まて侍し
祢の日すれは野邊に小松のなかりせは
ちよのためしになにをか花ゝ満之
子とせまゐりてもまつも嵐より吹
志らいふく緑川をや尽し

若菜

野中菴若葉世事推之慧心
梅下和歌作人家之美指
わとうらいまられつませんかさをりれ
かりもれもらいふてを見ぬれは
おとかりきわつ家はましゝゐめし野家
さのよも菓つもゆきはありつ
ゆきふぬゝ人もしのゝとられ野に
くつ哭りはめりまり家なり計幸

三月三日 付桃

春来遍是桃花水不辨仙源何處尋
春之暮月之三之排天碑于花
桃李盛是我春一日之濫觴様旃
幽水雖存遺塵路纏書巴字云
知地勝出魏文以殊風流蓋春之
取之謹上小席之奈

所之讃上小序之奈

煙霞遠近桃李淺深以勸宣

水成巴字初二月涙起周年淚幾霜

礒石遶來仙藕絡幸流遇至長

桃

新面係湯波〻照新蟾照風

綾帽不言〻唐光暖

三地色小〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

春春

拂水柳絲長青〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

鄉越沙鷗湖曉乱緑好高素深〻

人今史〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

劉伯玉今昔好麗言洪〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

三月盡

春〻〻不注春帝人〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

留春〃不住春帰人寂寞
厭風〃不定風起花蕭索
竹院君閑銷永日花亭我酔送残春
惆悵春帰留不得紫藤花下漸黄昏
送春不用動舟車唯別残鶯与落花
若使韶光知我意今宵旅宿在詩家
留春不用関城固花落随風鳥入雲

けふのみとはるをおもはぬときたにも
たつことやすき花のかけかは
はなもみなちりぬるやとはゆくはるの
ふるさととこそなりぬへらなれ
またもこむときそとおもへとたのまれぬ
わかみにしあれはをしきはるかな

閏三月

今年閏在春三月剰見金陵一月花
帰谿歌鶯更逗留於孤雲之路
辞林舞蝶還翩翻於一月之花
花悔帰根無益悔鳥期入谷定延期
さくら花はるくははれるとしたにも
人のこゝろにあかれやはせぬ

さくらゝ紅ゝくれなゐ白ゝ白ゝくれなゐ紅ゝ
人のこゝろ
わすれやすき

鶯

鶯聲幽谷出遷喬
誰家梅樹花開時
春風吹入千門柳
一夜春雨珠簾外
明月清山啼鳥
春深有酒聞啼
鶯聲流水
鶯聲流水
感同類相求
今春氣
無姿
郭之籍
新路
西橋

霞

霞立つ曙の殿の東面は晴れ来ぬ嫩の煙

[illegible]

雨

[illegible]

さくらかをあたらしくいめるもとをかのうはけふをまこと
青柳のえをふかみとりあらたまるいとをもてぬくたまをぬく

梅 付紅梅

白川殿梅沒洞水黃昏柳出城墻
梅花節蕚花琴之柳延和燈入酒中
淅蕭蕭雪新封雲緣繞風來廣先
素絲綿之陶〻柳白玉蕚成度岸梅
又岸蕚〻素淡來俱樣大度素樣梅
誰立素色淡來白玉蕚暗香枝紅始開
烟淡柳色看打淡色淡梅紅蕚色歌

いかにうつくしかりけるわのやとに
もうゑしはなのうめをそなれうゑけり
わのせこふかをしとおもひしむめの紅
をもしろみ雪はしらなみ
かをとめくるしかりけるうんむ紅のくれ
わやはりうゑをもちかうゑ

紅梅

梅含雖有無紅氣江春獨愛無黃蝶之
淺紅婀娜仙方〻雪蛾色淡淡

淺紅燁燁仙方〻雪蛾通淡雪〻
芳郁妓鑪〻烟濃薄
有通物分弦雪應古情艶辨久陽井
仙門風雪鍛雪好焼大暖未揚燈
[illegible]
[illegible]
[illegible]

柳

林寫仙〻吟筆樣墻柳淮〻朦朧
浙砌揚絶驕馬若未多應如立樣人
平安廟紀如洲移昭村柳華眉
瀛知老去風情〻凡〻爭愛一句詩
大度岸〻梅子落淮〻移粧亞廬
山〻春未開豈如逸如麗
雲髮紅疑枝葉自春嬌美殊嫩柳風
秘宅遠晴庭月晴清地遠日久煙深
深月淡更枝極岸只風來淡蒙蒙

花 付落花

花明上花雖所驚九陌春樹外
空山斜存鶯千巖萬壑深
池邊濯濯無深水紀光輝大曉去
色色人人新色人人滿生機自然
鶯月當風雪紅千顆萬顆新
深枝淺枝新新一入來入來如
雖謂水之法勢逆波變色
雖謂紅之法雖紅波變色
新謂水別潭安抱粉流清
新謂之別潭之人孫繁榮
織紅綠唯美織之意指繼風
花花輝光流振織者美風美和

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

落花

落花に沿て梅樹流水をへだてる人池

[illegible]

春花の間に鶯入硯暢々遊曉寫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鄰燭

[illegible]

鄰燭

晩藁尚風紅鄰燭社房初照日美容
秋遊欲繰把愛人食家無折得於
おもひいつるとなくなくはるかなる山の岩はしし
いとゆかしくあるとこそあるとこそ

歌久

題出雖黄天有意歌久清線雲風
書窓有老却收拾紙文未奉仍
かくれなく神なりしより山のあんてふの
いまやかぐ山の雲さかりなれ
ときやよる風えんのつかさに立てふ
ちりのつくなしとくれん年

藤

惜中意思二月春光栄後花開
業後藤孤弱繁折枝中書多
栄華偏奪春花色無色
七日高宮三月
あこれうつくしきかなまちかねたる
うつくしきかなまちかねたる
これいなるもののなりわやはりと
まちかねたるさくらかれ

夏

更衣

肖像殘紅宿燭風箱衣著清年香

生衣新紅影〳〵忘宿礦南拓色老研

[illegible]

[illegible]

首夏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夜秋

風吹柿本時天雨月照茅茨家秋

風生竹裏秋風月照松間夜聲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なつの夜をねぬにあけぬといひおきし
人はものをやおもはさりけむ
かくはかりおしとおもふ夜をいたつらに
ねてあかすらむ人さへそうき
夏夜はふすかとすれはほとゝきす
なく一こゑにあくるしのゝめ

端午

有時南宮危有無意敢晝組織り

よのことくあやめふかひくらおやめくさ
おひとおもふやまくらなからん
きのふまてよそにおもひしあやめくさ
けふわかやとのつまとみるかな

納涼

青苔地上消殘雨　緑樹陰前逐晩涼
露簟清瑩迎夜滑　風襟瀟灑先秋涼
不是禪房無熱到　但能心靜即身涼
班婕妤團雪之扇　代岸風兮長忘
燕昭王招涼之珠　當沙月兮自得
明年縱有清涼日　忘却今朝納涼詩
池冷水無三伏夏　松高風有一聲秋

すゝしやとくさむらことにたちよれは
あつさそまさるとこなつの花

晩菊

竹亭淺合倫宣長水樵風源秋

紅橘

亜橘子信濃守梅園義敬風源

枝葉金絲垂以紅葉蓬蓬翠鄰風

蓮

風行花葉蕭條水蓼疎紅麻蓋

葉展紅鬚富物月紅爾香散入簾風

煙開華蕚清風曉水淡紅衣白蘇株

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

郭公

一声の曙雲外遠き秋草
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蛍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山路春雪　嶺海驚鶯　川岸春波

[illegible]

[illegible]

蝉

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

扇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれがたきもの　[illegible]

[illegible]

天の河　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕

立秋

蕭颯風白露繁　[illegible]

鶏澌数間　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早秋

但善暑過　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七夕

憶得少年長乞巧　竹竿頭上願絲多

二星適逢未叙別緒依々之恨
五夜将明頻驚涼風颯々之声

露應別涙珠空落　雲是残粧髻未成

風従昨夜聲彌怨　露及明朝涙不禁

去衣曳浪霞應濕　行燭浸流月欲消

詞託微波雖且遣　心期片月欲為媒

あまのかはとほきわたりにあらねとも
きみかふなてはとしにこそまて

一とせにひとよとおもへとたなはたの
あひみるあきのかきりなき哉

[illegible]
[illegible]

秋興

林間暖酒焼紅葉　石上題詩掃緑苔

蘭恵苑嵐摧紫後　蓬莱洞月照霜中

大底四時心惣苦　就中腸断是秋天

物色自堪傷客意　宜将愁字作秋心

物遠負情傷春之宜將慈字紙秋色
中來感思之秋天多被寿長福幸
弟一傷之何事哉秋月雲霧
蜀茶漸忘浮塵樂世練行情撫琴
うたゝ寝の夢通ひわたる紀を
おもふ人ともとつくまよふ
行さきなれぬ山路の雲まを
わけさぞうらぶれ侘たる

秋晩

相思夕上松巷之暮忠蟬聲滿耳蛩
聲山幽月在秋風孤砌菊花香
とゝろ山ふかき山路の紀ま紀
おのつゝ山ふかき山路の紀ま紀

蛩夜

秋風長秋長之眠天明秋夢
檢宵燈秋蕭々暗雨打窓
蛩聲秋夜秋夜ふ秋夜の砌暗
燕子樓中秋月秋秋朱兵衛一人長
夢家鄉源源宵雲月雨

夢来藤原人家に宴す時に月明なり

蕭洒裏孤舟爰楡柳蒙沢可堂し

わすれ草のかたらひ尾のちりもたえ
かるくしく紙ひとりかな秋しも

しのぶもぢずりつるふのみちのくの
いとゝはわされおくるゝ夜

八月十五夜 付序

参内す一千歳豈漂々氷壺

漢家々二十六天沙々粉飾

織婦機中上雑相思字搗

衣砧上俄添感動々聲

之文和中新月逢二千年実外在人心

雲山新霽千重雪流水乍晴数点秋

十二廻中三度接於山々好手方

まのの皆事おもしろ

碧波金波之文初秋風計之

紙字家々之秋風計之

人道無学之歌学凝眸之

人道無学之歌学凝眸

人道を[illegible]

遠村に寒潭融て春深井邑

瑤池使を[illegible]帝[illegible]

清明[illegible]

金膏一滴[illegible]

楊貴妃唐帝[illegible]

[illegible]

こよいてわさ[illegible]

月

誰人か[illegible]久源成の[illegible]

秋の深[illegible]

[illegible]

天山の[illegible]

秋和[illegible]

郷源[illegible]源氏[illegible]

[illegible]

みつの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月九日 付菊

懸知社日摘菓為重陽胃面風
採故事於淵底男赤茱萸摘之
人〻容尋籬跡也魏文亦黄花
昭彰祖之術

先二遍分吹之如曉光之物
川の淵川十分為陽之形顕物
雲之色流川

谷水流花汲下流而得上寿者之
十倍歟地脉和体冷目精而延
年永者又百箇菓

わつやそのこゝろをしたに
いく代つもりてしらるらん

菊

霜雪老賢之分日蘂菓新花一生黄

霜蓋老鬢ニ[illegible]白露葉新紅一半黄

不堪死中偏於菊山紅風後更[illegible]

嵐流[illegible]岩巻松梢[illegible]後洞林[illegible]

[illegible]朝[illegible]菊[illegible]先敗

籬除村間酒盈陶[illegible]光子不[illegible]

菊苑自慙為繁[illegible]接離不[illegible]

葉[illegible]死嵐摧[illegible]逐葉洞無[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月晦

紙清函力固[illegible]蕭瑟於雲衢紙

令[illegible]貴而追[illegible]爽籟出風[illegible]

頭自紙造[illegible]以秋[illegible]

又[illegible]按響白駒[illegible]海[illegible]舟[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女郎花

花更必葉業俗呼女郎花名
載歌契備老忘恩義背仙霜

秋

曉露兼傷花姿百物摘折一呼情

蘭

和漢文章蕭條物老東籬業高叢
枝葉豈不新手淫手搦忽零叢
葉豈不芳手秋風吹出光敗
凝紫澤女顔施粉滴脂緑眼浮珠

嬾出深窓女顔施粉滴似鮫人眼涙珠
曲驚楚客秋絃馥夢断燕姫暁枕薫
なに人かきてぬきかけし藤はかま
くる秋ことにのへをにほはす

槿

松樹千年終是朽槿花一日自為栄
来而不留薤壠有払晨之露
去而不返槿籬無投暮之花
おほつかなたれとかしらむあきゝりの
たえまにみゆるあさかほの花
あさかほをなにはかなしとおもひけむ
人をもはなはさこそみるらめ

前栽

多見人栽花悦目儔先時詠巻待開年
遊子昔来辞家傭終春樹下栽
秋草不殊
来思看他花日已是南吾鬢年
曽排棟宇又無益尋是花時倚世高
ちりぬるをふかくしとそ思ふらむ
いりくわつめてここな川ろくね

紅葉　付落葉

不堪紅葉青苔地　二月春風似花処

黄纈纈林霜後景　白雲飄颻嶺頭峰

澗中清淺波瀾碎　一道斜陽錦繡成

外物獨殘松澗畔　孤峰雲合力猶深

[illegible]

[illegible]

落葉

二林三宮海内長　潯陽滴万重山

鄰家何主藏葉深

秋庭石揚撲芳枝　未曾枝間黄葉彩

城柳多枯漫搖落　惜悲人人心

枯林新雨一声々　長安蕭蕭鶴

鵬翔千数行　紅葉紅

鵬翔之數行こゝに紙筆

樵薪注返林家業賞こゝに夜泊

逸優遊遍歩嶋雅仙こゝに来

竹風蕭蕭合蕭瑟瀧石飛泉無絃琴

西来光景無尽春舞鶴来舞清風

わたつみの底なる沖の

山乃ゆゝしき風なるかな

神かつさしたるかゝなるいと

りとたゝこの葉はゝ

見ん人をなつかしみ山吉

みちのくにさるの

鴈 付帰雁

万里人南去二春雁小花之家

来月滑白洲同帰

滑陽江之潮漫彩霧秋来

雲之来山桜花之紅雁題之秋

雲之那遊未拙鏡於之法月鏡奇

笑而迷杉城清水下流小魚

乃花紫蔦書之紙筆堂霜林砂端機

[illegible]

[illegible]

雲[illegible]

わ[illegible]

[illegible]

帰鴈

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

出

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鹿

[illegible]

露

[illegible]

霧

[illegible]

擣衣

[illegible]

[illegible]

擣衣

八月九月正長夜千聲萬聲遍山村
砧聲誰家擣秋月照人愁
海內無閑妻萬戶擣衣聲盡曉
擣衣聲盡月沈時寒來
裁上征遠遠萬里送征衣
風塵萬元變邊雁不傳書
年年秋思發萬戶擣衣聲
[illegible]

冬

初冬

十月江南天氣好小春
游子忘歸日故園
床上夜來新篋裏中間未織衣

[illegible]

冬夜

[illegible]

歳暮

[illegible]

燈火

[illegible]

[illegible]

紅葉の錦ぞ見て近日那覇獻上

うつしひのもとに紅葉を
かくみてまたれ[illegible]

霜

二社宮に百紅初日一枝林葉紅
葉物語和歌堤通宮冬日最明子
霜を支給る武藤孤婦と張上山
源盛勅光侵冬晩くして鬢白
赤子和源光と海老名源兵衛
冬と新年の旅歩と初雪萬葉人
農積海鷗変色秋冬華和歌堂
秋をうしと初雪のうすけく
はしいとあ[illegible]

雪

曉入梁雪花蕊蕩辯山和釜
度ゆう梅月明千里
浦千沙漠二千峯梅花紅開一枝林
高樹鶴毛花散乱沙鷗蓑立徘徊

雲州鶴毛花数九〻　秋鶴毫五徘徊

武遊風に返必振舞　鶴毫に南

晴れ行く秋　銀燭に灯

翅洲に舞梅酒鶴毛　鹿毛興樽舟〻

立出る上洲の鶴毫仕梅毛毛毛

堀安園中秋厳遠楚　毫毫琴琴

ものこふるくるめ〻くるる月

ものやこふるやまふかりけるか

見ようやさしの〻ものしる

ものまてはあふ〻ふ〻

いつまて秋梅と紀〻

氷　付春氷

氷封水雲〻〻源雲林陸人毛紀

雲妨鶴嚏毫毛縁水法抓銀毫毛氷

春氷

氷清人水多蛭雲毛数中山直入橋

春歌

氷消て水ぬるむ頃雪霰中山越て入梅

秋清て雁霜霜霜梁を石枕

胡蝶誰能今侵部濤陀寺忘失言也

やまけのこゑはまくらにかよふ

まくにのこゑはいまやうらん

霰

廬峯雪来霰乎暗珠領玉投類之

見やまはわしもはなはもはなはるく

ゆきにのこりたるこゑ

佛名

香火一炷焼一炷於一生所修

佛名功徳

無量諸仏世界中

合掌心身尊

わたなかるくもはるくはるくはるく

はるくものうらはなるやしわん

かくもはわうかはをとりむしるくはるく

やうのちふはるくはるく

佛名

香火一炷燒一爐香

佛名經

南無釋迦牟尼佛

南無寶勝如來

わたなかのうちにはるかにうかべるしらくもの
はるばるとのぼりはてぬるやまのはのつき
かたぶくまでにわがこころをばいかにせよとか
とりのこすらむ
ゆくへもしらぬこころかな

二印

九番

所輸物

坪井包江

明治二十年

摘要					
		坪井包江筆	第八七番	第甲貳號	大正六年改 丙

宮內廳書陵部